

種目別開催要項

① 陸上競技

- ◎種目 (男) 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 3000m, 110mH(高さ 91.4cm), 4×100mR, 走高跳, 棒高跳, 走幅跳, 三段跳, 砲丸投(5.000kg)
(女) 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 100mH(高さ 76.2cm), 4×100mR, 走高跳, 走幅跳, 砲丸投(2.721kg)

- ◎参加規定
- ・申し込みは学校単位とし、1人1種目とする。ただしリレーをのぞく。
 - ・1種目につき1名のエントリーができるが、3000mのみ1校2名以内とする。
 - ・すべて共通種目とする。
 - ・陸上競技専門部のホームページから申込用紙をダウンロードし、入力後プリントアウトし別途申込先に送付し、期日までにメールで陸上競技専門部にも送信のこと。
 - ・ナンバーカードは登録番号を使用し、各自で作成する。縦20cm, 横27cm(B5サイズ)以上で、1文字の大きさを縦10cm, 横5cm以上, 字幅を1cm程度で、白地に黒で記入したものとする。
 - ・ナンバーカードの未登録者は、新規に登録するので、陸上競技専門部のメールアドレスに送信すること。(新規登録番号はホームページの部員登録名簿をご覧ください。)
 - ・申し込み後の選手変更は原則として認めない。ただし、健康上の理由で変更する場合やその他の特殊な事情のある場合は、学校長の理由書を専門委員長まで提出する。

陸上競技専門部ホームページ <http://www.yjptf.jp>
メールアドレス senmonbu@yjptf.jp

② 水泳競技

- ・平成31年4月23日(火)の定例総会で配る統一要項を参照

③ 体操(東西合同)

○参加規定

団体(学校単位)

- ・支部内出場チーム制限無し
- ・1チーム4名(3名可) 補員2名, チームリーダー1名。

個人

- ・自由参加

○競技種目(自由演技のみ実施)

- ・男子 ゆか, あん馬, 跳馬, 鉄棒
- ・女子 跳馬, 段違い平行棒, 平均台, ゆか

○競技方法

- ・団体は、3種目(男子はあん馬, 女子は段違い平行棒を除く)のベスト3の合計得点により順位を決定し、3位まで表彰。
- ・個人総合は団体出場, 個人出場を問わず4種目の合計得点により決定し、6位まで表彰。
- ・種目別は、1位のみ表彰。

○競技規則

- ・(公財)日本体操協会制定男子採点規則2017年度版男子採点規則2017年制定・2018年中学校適用規則(U-15)を適用。
- ・(公財)日本体操協会制定女子採点規則2017年度版変更規則Iを適用。

○服装

- ・出場選手は学校マークの入ったユニフォームを着用し、ゼッケンをつける(団体チームは同一ユニフォームであること。)
- ・ゼッケンは右図の大きさで
男子は黒字, 女子は赤字で
校名, 氏名を記入。

13
CM

校名
氏名

18CM

④新体操（東西合同）

- 参加規定 団体（学校単位）
 - ・支部内出場チーム制限無し
 - ・1チーム選手5名，補員3名個人
 - ・自由参加
- 手 具
 - ・団体競技…リボン（時間2分15秒～2分30秒）
 - ・個人競技…ボール、クラブの2種目実施（時間1分15秒～1分30秒）
 - ・クラブは生徒の安全面からオールプラスチックは使用不可とする。（検定品であること）
- 競技規則
 - ・（公財）日本体操協会制定新体操採点規則2017-2020年版【改訂版】ジュニアルール及び中体連ルールを適用する。
 - ・参加選手は、それぞれの学校を示す標識（マーク）を全面ウエストより上につける。マークの大きさは3cm×3cm以上の大きさとする。（団体は同一のマークであること）
- 競技方法
 - ・団体は同一校で編成した5名による演技で順位を決定する
 - ・個人総合は2種目の合計得点により順位を決定する。
 - ・種目別は、各種目の得点により順位を決定する。
- 表彰 表彰
 - ・団体1位、個人総合1～6位、種目別1位を表彰する。
- 服装 服装
 - ・練習着も含め、セパレートタイプ（露出度の高いもの）・肩ひもの細いダンス用のレオタードは禁止する。
 - ※ただし、セパレートでもお腹が見えないタイプは許可される。

⑤相 撲

- ◎参加規定
 - ・自由参加，学校単位。（各校2チームまで）
 - ・団体戦は1チーム3名編成（補員は2名まで）とする。
 - ・個人戦は1校10名まで参加できる。（個人戦のみの参加も認める）
- ◎試合方法
 - 団体戦
 - ・チーム対抗のリーグ戦による。
 - ・参加チーム多数の時は予選リーグ戦の後，上位チームによる決勝トーナメント法による。
 - ・リーグ戦において対戦成績（勝率・勝点）が同じ場合，直接対戦した際の勝ちチームを上位とする。
 - ・メンバー変更は補員をあてるのみ認めるが，正員の位置の移動は認めない。
 - 個人戦
 - ・トーナメント法による。（軽量級65kg未満，中量級85kg未満，重量級85kg以上）
 - ・参加選手が少ないときは，専門部の判断により，リーグ戦で行う。
 - ※監督・選手の判定に対する異議申し立ては認めない。
- ◎その他
 - 礼
 - ・試合前の礼はちりをきる。
 - 仕切り
 - ・1回目から待った無しで仕切る。
 - 立合い
 - ・仕切り線の後方に両手をついて静止，主審のかけ声で立ち会う。
 - ・試合後は互いに合わせて立礼をし，勝者はそんきよの姿勢で判定を受ける。
 - 服装
 - ・まわしの前に学校名のマークをつけ，前の垂れは三角に折る。まわしは正しくしっかり巻き，最後が長くなったり短くなったりして折り込めないということのないようにすること。

⑥ 柔 道

◎参加規定

- ・団体戦…学校対抗，1校1チームでフリー参加。男子1チーム選手5名，補員2名，監督1名。女子1チーム選手3名，補員2名，監督1名。コーチは1校1名以内。メンバー変更は，補員を当てることを認める。尚，退いた選手は，団体戦に出場はできないが，個人戦には出場することができる。チーム編成は体重の最も重い者を大将として，以下順次体重順に編成のこと。
- ・個人戦…男子8階級，女子8階級で行う。
男子 50kg 55kg 60kg 66kg 73kg 81kg 級 90kg 90kg 超級
女子 40kg 44kg 48kg 52kg 57kg 63kg 級 70kg 70kg 超級
体重の範囲は，前級の体重を超えて，その体重以下とする。
(例) 55kg 級は，50.1kg～55.0kg となる。

◎試合方法

- ・男女個人戦参加規定…支部より各階級代表人数については以下の通りとする。
大島④，岩国⑧，柳井④，熊毛④，光④，下松④，周南⑧，防府⑥，山口⑧
- ・団体戦～予選トーナメント（ベスト4まで）。決勝リーグ戦。
- ・個人戦～原則としてトーナメント方式で行う。（3位決定戦を行う。）
- ・開館 8:00，受付 8:05，予備計量 8:05～8:25，正式計量 8:30～9:00
予備計量は選手が各自で行う。正式計量は会場係が行い，1回しか計測できない。
個人戦では，正式計量時の体重が範囲内を示さなければ「失格」となる。

◎日 程

◎服 装

- ・団体戦終了後，個人戦を行う。
- ・柔道衣（上衣・下衣・帯）は，国際柔道連盟試合審判規定に定めるサイズで認証柔道衣（新規格）とする。規定の大きさのゼッケンを着用。

◎審判方法

- ・試合は国際柔道連盟試合審判規定（2018年～）ならびに国内における「少年大会特別規定」によって行う。
- ・試合時間は団体戦個人戦とも3分。延長戦は時間無制限とし，ゴールデンスコア(GS)方式とする。
- ・男女団体戦
(1) 判定基準は「一本」「技有」又は「僅差（指導の差2）」とする。

「一本」＝「反則勝ち」>「技有」>「僅差」

- (2) 代表戦の選手は任意で選ぶことができる。3分間で優劣がない場合，延長戦（GS方式）により必ず勝敗を決する。

◎そ の 他

- ・男女個人戦
(1) 判定基準は「技有」または「僅差」以上とし，優劣がない場合は延長戦（GS方式）により必ず勝敗を決する。
- ・団体戦において，参加規定人数に達していない場合（男子3名女子2名以上）でも出場可能。その場合の申し込みは大将の方より順につめて申し込む。
- ・申し込み後やむをえない理由で登録を変更する場合は，大会一週間前までに連絡すること。（岐陽中：藤本まで）
- ・各支部専門委員長は，組み合わせ作成のため，団体，個人戦とも出場校，選手が決定し次第，⑥-3支部一覧表及び参加料一覧表をメールで岐陽中：藤本宛に1部送付すること。

連絡先及びメール送付先
〒745-0851 周南市大字徳山4915番地
周南市立岐陽中学校内 藤本 陽 宛
TEL 0834-22-8840 FAX 0834-22-8524
藤本PC e-mail: fujimoto.akira@ysn21.jp

- ・申し込みについて
 - 各学校で申し込むもの
 - 1. ⑥-1（団体戦）正副各1部
 - 2. ⑥-2（個人戦）正副各1部
 - 各支部専門委員長が申し込むもの（メール添付）
 - 1. ⑥-3男子個人 ⑥-3女子個人
 - 2. 参加料一覧表 *支部でまとめてください。

⑦ 剣 道

- ◎参加規定
 - ・団体戦…男女とも学校単位。男子は支部実チーム数の1/2（端数切り上げ）、女子は支部実チーム数の2/3（端数切り上げ）。主催・開催支部は上記の規定からプラス2校とする。
1チーム5名、補員2名、マネージャー1名。（3名の際は、先・中・大、4名の際は、先・中・副・大とする。）
 - ・個人戦…各支部4名。ただし、支部内実チーム数7校以上は8名。開催支部は8名。
- ◎試合方法
 - ・団体戦…リーグトーナメント法（予選リーグ～順位決定トーナメント）
 - ・個人戦…トーナメント法
- ◎日程
- ◎服装
 - ・垂れ（縦18cm、横12cm）に白字で学校名（〇〇中）、姓を明確に記入のこと。つけていない選手は不戦敗とする。
- ◎審判規定
 - ・全日本剣道連盟剣道試合・審判規則ならびに剣道試合・審判細則及び山口県中学校体育連盟剣道専門部の大会申し合わせ事項により行う。
- ①試合時間
 - ア 団体戦～3分とし、勝敗の決定しない時は引き分け
 - イ 個人戦～3分とし、勝敗の決定しない時は延長戦を行い勝敗を決定する。
- ②団体戦の勝敗は勝者数により決定する。
- ③場外規定は適用する。（試合場：9～11m）
- ④選手の交替は補員のみ認め、出場区分の変更は認めない。
- ⑤竹刀については、当日検量を行う。
※詳しくは大会申し合わせ事項を参照のこと。
- ⑥その他詳細は本年度専門部大会申し合わせ事項を熟読し、遵守すること。
- ⑦試合は個人戦、そして団体戦の順に行う。

⑧ バスケットボール

- ◎参加規定
 - ・引率責任者1名、監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手15名の合計19名までのベンチ入りを認める。
 - ・各支部の出場数は、県専門委員長会議で決定した出場枠による。
 - ・コーチについては、県中体連に登録してある者とする。また、トレーナーのベンチ入りを手続き後認める。
- ◎試合方法
 - ・トーナメント法
 - ・2019年度日本バスケットボール協会競技規則（中学校の部）で行う。ただし、新ルールに関しては全中終了まで適用しない。
 - ・本大会は日本バスケットボール協会の「マンツーマンディフェンスの基準規則」に則って行います。
マンツーマンコミッショナーや基準規則違反の罰則等については後日連絡します。
- ◎日程
 - ・第1日目は2回戦まで実施し、第2日目は準決勝・決勝戦を実施する。（3位決定戦は実施しない。）
- ◎服装
 - ・ユニフォームは上下同型同色とし、白色と濃色の2種類用意すること。（組み合わせ番号の若い方が白色。背番号は4番～18番とする。）
- ◎使用球
 - ・日本バスケットボール協会規定
男子 検定 7号球革製
女子 検定 6号球革製
- ◎その他
 - ・監督・コーチは大会運営、審判に協力のこと。
 - ・フロアシューズと土足を必ず区別すること。

⑨ バレーボール

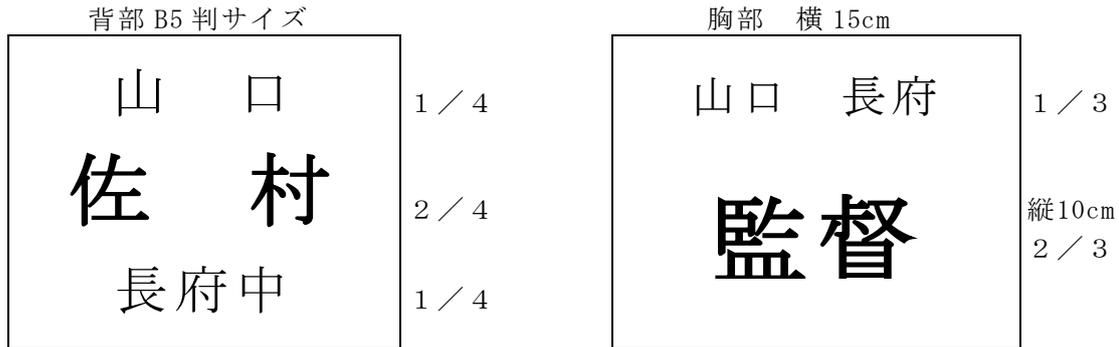
- ◎参加規定
 - ・学校単位、男子…フリー参加
女子…支部内チーム数の1/3（四捨五入）
 - ・1チームは監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手12名以内とする。その他2名のボールマンを認める。
 - ・参加生徒の引率・監督は、「山口県中学校体育連盟引率・監督規定」により、出場校の校長・教員、部活動指導員とする。
（※部活動指導員とは、学校教育法施行規則第78条の2に示されている者）
 - ・外部コーチは校長が承認し、中体連に登録されたもの限りベンチ入り認められる。
- ◎試合方法
 - ・トーナメント法、2019年度（公財）日本バレーボール協会競技規則及び中体連申し合わせ事項による
- ◎日程
 - ・第1日 男子 ～準決勝まで 女子 ～準々決勝まで
第2日 男子 シード順位決定戦、決勝 女子 ～準決勝・決勝
- ◎服装
 - ・ユニフォームは、チームで統一したものを使用すること。また、ユニフォームの選手番号は、協会規定の1～12番が望ましい。文字は鮮明に判別できる数字にすること。監督、コーチ、マネージャー、主将は、規定のマークを所定の位置につけること。
 - ・指導スタッフは統一された服装でベンチに入ること。
- ◎使用球
 - ・4号球、人工皮革のカラーボールとしチームで検定球1球準備すること。（男子・・・モルテン、女子・・・ミカサ）
- ◎その他
 - ・申し込み用紙に支部順位を書くこと。
 - ・原則として、敗者チームから次の試合の審判・線審・スコアラーを出すこと。
 - ・フロアへのクーラー持ち込みは禁止する。

⑩ ソフトテニス

- ◎参加規定
 - ・団体戦…支部現有校数（各支部予選登録時に団体戦が組める学校数）により、2校までは1校、5校までは2校、7校までは3校、10校までは4校、15校までは6校、16校以上は8校とし、開催地枠はなし。1チームは、監督1名と選手8名以内とする。
 - ・個人戦…支部現有校数（各支部予選登録時に個人戦が組める学校数）により、2校までは2ペア、4校までは4ペア、5校までは6ペア、7校までは8ペア、10校までは10ペア、15校までは12ペア、16校以上は16ペアとし、開催地はプラス4ペアとする。1ペアは、監督1名と選手2名とする。
 - ・1人の外部指導者が複数の学校のベンチに入ることとはできない。1つ学校からの申し込みをすることとする。
- ◎試合方法
 - ・試合は、（公財）日本ソフトテニス連盟ハンドブックによる。審判については、敗者審判を原則とする。
 - ・団体戦は、チーム対抗トーナメント法で、7ゲームマッチとし、いずれかが初戦の対戦までは、3ペア実施し、それ以後は2点先取とする。
 - ・個人戦は、トーナメント法で、7ゲームマッチとする。
- ◎試合日程
 - ・第1日目～団体戦 第2日目～個人戦
 - ・第1日目が雨天の場合は、監督会議で決行もしくは中止の決定をする。（県体方式：監督・選手が試合会場に集合し、試合について決定する。）
 - ・第1日目の団体戦が中止になった場合は、第2日目に団体戦を行う。その場合、個人戦は団体戦の進行状況により進行する。
 - ・個人戦が中止となった場合の連絡は、各支部の団体戦に参加した学校で行う。
- ◎服装 ①選手
 - ・上は襟付き・半袖のスポーツシャツ、下は膝より上のパンツ・スカートを着用すること。ただし、服装（用具を含めて）の色は華美にならないようにする。アンダーウェア、スパッツの着用を認める。色は黒、白、ベージュとする。サポーター、テーピングの色も同様とする。
 - ・ソックスは、くるぶしが隠れるものとする。ハイソックスは認めない。
 - ・テニスシューズを着用する。
 - ・アクセサリ類（ネックレスやブレスレットなど）の装着は認めない。

- ・背中のゼッケンは、B5判横【白地】で、文字は黒色で『県名・姓・学校名(〇〇中)』の3段とし、『漢字』または『ひらがな』『カタカナ』を使用すること。ただし、背面プリントは不可。また、同名の学校がある場合は、区別するために学校名を工夫してもよい。
- ②監督・外部指導者(コーチ)
 - ・ベンチ入りをする時は、襟付きのスポーツシャツを着用する。
 - ・テニスシューズを着用する。
 - ・胸に『監督』または『コーチ』のゼッケンをつけること。ただし、外部指導者(コーチ)の表記は『コーチ』とカタカナで表記する。県名・学校名の表記の仕方は、監督ゼッケンに準ずる。
 - ・(公財)日本ソフトテニス連盟公認球を使用する。
 - ・大会規定に反した場合は失格とする。
 - ・申し込み後の選手ならびに監督の変更は、所定の変更届を提出すること。

- ◎使用球
- ◎その他



⑪ 卓 球

- ◎参加規定
 - ・団体戦…学校単位、別途出場規程枠により、前年度新人戦出場学校数による比例代表で決定したチーム数。
 - ・個人戦…別途出場規程枠により、前年度新人戦出場学校数による比例代表で決定した人数。
- ◎試合方法
 - ・団体戦…4シングルス、1ダブルスのチーム対抗トーナメント法、相互審判。同一試合のシングルス、ダブルスは重複して出場できない。3点先取。チームの選手が5人の場合は1番のシングルスを棄権、4人の場合は1・2番のシングルスを棄権とする。
 - ・個人戦…トーナメント法、敗者審判。
 - ・ルールは今年度日本卓球規則及び本大会要項に準ずる。
 - ・個人戦を先に行い、後に団体戦を行う。
- ◎日 程
- ◎服装および用具
 - ・ラバー、ラケット、ユニフォームはJ T T A、I T T F公認のものとする。
 - ・ゼッケンを必ず背面につける。(日本卓球協会のゼッケンが望ましい。15cm×20cm、上に選手名、下に支部名・学校名)
- ◎試合球
 - ・ニッター、T S P、バタフライのホワイトの公認球。
 - ・試合球は、各校(各選手)で準備する。
- ◎その他
 - ・団体戦は、監督・アドバイザー(教職員または登録コーチ)各1名のベンチ入りを認める。審判の判定に関する質問等は、個人戦では選手本人、団体戦では監督ができるものとする。
 - ・個人戦は準々決勝より、監督・アドバイザー(教職員または登録コーチ)のいずれか1名のベンチ入りを認める。(アドバイザー一名は、必ず参加申込書に記入する。)
 - ・タイムアウト制度を個人戦は準々決勝、団体戦は準決勝より適用する。
 - ・個人戦の申込書は学校単位で提出する。その際、同一チームから2名以上参加する場合は支部順位の順に記入する。但し、3位決定戦を行っていない場合はベスト4、5～8位決定戦を行っていない場合はベスト8と記入する。

⑫ 軟式野球

◎参加規定

- ・ベンチ入りできる者は監督（引率責任者）1名、選手18名以内（スコアラーを含む）。また、この他に教員（部活動指導員も可）2名追加することができる。但し、外部指導者コーチが入る場合1名とし、計21名以内とする。外部指導者コーチは、県中体連登録した者に限る。

◎試合方法

- ・登録選手の変更については、所定の届け出用紙（県中体連HPにてダウンロード）にて登録選手以外の選手との変更を認める。
- ・トーナメント法，1試合の回数は7回とし，同点の場合は延長2回までとする。これで勝負が決しない場合は特別延長戦とする。特別延長戦は9回からの継続打順で勝負が決するまで行う。
- ・5回以降7点差が生じた場合はコールドゲームとする。
- ・会場によっては，特別ルールを設けることがある。
- ・ルールは，2019年公認野球規則と中体連申し合わせ事項による。

◎服装

- ・選手は同一のユニフォームを着用し、背番号は1～18（スコアラーを含む）とする。監督、コーチは選手と同一のユニフォームを着用し、監督は背番号30、コーチは背番号29、28をつける。
- ・コーチでない教員がベンチ入りする場合は、平服（ワイシャツ・ネクタイまたは白ポロシャツ、審判着など）に選手と同一の帽子とする。但し、女性は考慮する。

◎危険防止

- ・ハイカットストッキングは禁止する。
- ・バットリング、硬式用バット、鉄棒の持ち込みは禁止する。
- ・ネクストバッターズサークルでのマスコットバットは許可する。
- ・捕手はレガース・ヘルメット・プロテクター・スロートガード・ファールカップをつけること。投球練習場や控え捕手が投手の投球を受ける際も同様とする。打者・次打者・走者・ランナーコーチ・ノックの補助員はヘルメットを着用すること。

◎使用球

- ・B球（ケンコー・ナイガイ・マルエス）
- ・1日につき3球準備すること。（雨天時は6球）返却はしない。

◎その他

- ・特記なき事項については、中体連軟式野球専門部申し合わせ事項による。
- ・雨天時の試合進行については、秋の県体方式に準ずる。

⑬ ソフトボール（東西合同）

◎参加規定

- ・学校単位及び県中体連の認める合同チーム，自由参加。
- ・合同チームで大会に参加する場合は，「山口県体育大会に関わる合同チーム編成上の規定」に準じて編成する。
- ・申し込み人数は，部長1名，監督1名，コーチ1名，選手18名以内（記録者を含む）の合計21名以内とする。部長・監督は当該校の教員とし，コーチ（外部コーチ）は県中体連に登録した者に限る。なお，コーチのフィールドイングは認めるが，選手交代，打ち合わせ，抗議などの権限は認めない。

◎試合方法

- ・トーナメント法，試合は7回戦，7回終了時，同点の時は，8回からタイブレーカーにより試合を行う。
- ・準々決勝までは90分の時間制限を適用する。その際，同点の場合は，次の回からタイブレーカーにより試合を行う。
- ・準々決勝までは，3回以降15点差，4回以降10点差，5回以降7点差がついた場合は，コールドゲームとする。
- ・すべてのルールは2018年度日本ソフトボール協会オフィシャルソフトボールルールによる。（指名選手・リエントリー・故意四球・テンポラリーランナーも採用する。）

◎日程

- ・第1日目～準々決勝まで
- ・第2日目～準決勝，決勝戦

◎服装

- ・チームは同一のユニフォームを着用し，ユニフォームナンバーをつけること。
- ・選手のユニフォームナンバーは，1番から25番までとし，監督は30番，コーチは31番，主将は10番とする。

- ・ 捕手，打者，走者，ランナーコーチともヘルメットを着用しなければならない。また、ランナーコーチは選手のみとする。
 - ・ 捕手はプロテクター・マスク（スロートガード付）・レガースを使用のこと。
 - ・ (財)日本ソフトボール協会検定3号ゴム球とする。(ナイガイ)
 - ・ 8：20より監督者会議を行う。
- ◎使用球
◎その他

⑭ サッカー

◎参加規定

- ・ 参加16チーム
岩国・周防大島・柳井・熊毛で4，光・下松で1，周南2.5，防府2.5，山口5，前年度優勝チーム支部1（防府）
周南支部と防府支部が隔年で出場枠1移動する。今年度は周南3，防府2。
- ・ 1チームは，引率・監督・コーチ各1名，選手18名以内の計21名以内とする。
- ・ 参加生徒の引率・監督は，出場校の校長・教員とする。その他，コーチについては，県中体連に登録された外部指導者又は，当該校の教員とする。

◎競技規則

- ・ (公財)日本サッカー協会制定の「サッカー競技規則 2018/2019」による。その他は大会要項による。
- ・ 交代要員の氏名は試合開始前に主審に届けられなければならない。また、再交代が認められ、ボールがアウトオブプレー中に、退いた競技者が再度、または複数回出場できる。
- ・ 試合球は5号球とし，競技規則第2条に適合するものとする。
- ・ 本大会において退場を命じられた選手は，次の1試合に出場することができない。違反行為の内容によっては大会の規律フェアプレー委員会でそれ以後の処置について決定する。各地区大会における退場による出場停止処分の未消化分に関しては，県大会でも適用される。
- ・ 本大会期間中，警告を2回受けた選手は，次の1試合に出場できない。各地区大会における警告の累積による出場停止処分の未消化分に関しては，県大会では適用されない。
- ・ 規律フェアプレー委員会のメンバーは，部長，副部長，審判長，会場主任とする。

◎競技方法

- ・ ノックアウト方式による。
- ・ 試合時間は50分（25分ハーフ）とする。勝敗が決しないときは，10分（5分ハーフ）延長し，なお決しないときは，PK方式により次回戦に進出するチームを決定する。ただし，決勝戦は，延長戦で決しない場合，10分（5分ハーフ）の再延長戦を行う。それでも決しないときは，PK方式により順位を決定する。

◎ユニフォーム

- ・ 正の他に，副として異なる色のユニフォームを用意する。
シャツ，ショーツ，ストッキングすべて2種類の色を用意し，フィールドプレイヤーとゴールキーパーの色はすべて異なること。
- ・ シャツの前面・背面に参加申込書に登録された選手番号をつけること。なお，番号は1番から99番までとする。（副のユニホームについても同様である。）
- ・ 審判員と同一色または，類似色（黒または紺）のユニフォームをシャツに用いることはできない。ショーツとストッキングは，黒または紺のみでも許される。ゴールキーパーについても同様である。また，ユニフォームのシャツが縞（縦縞も横縞も）の場合は，台布（縦30cm×横30cm）に背番号をつける等，わかりやすくすること。
- ・ 上記の事柄が守れない場合は，試合に出場できないこともある。
- ・ その他の事項については，（公財）日本サッカー協会ユニフォーム規定に則る。

⑮ ハンドボール (東西合同)

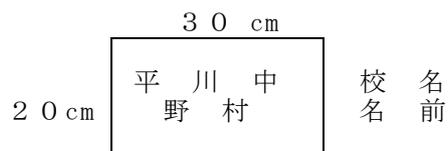
- ◎参加規定
 - ・学校単位, 自由参加
 - ・15名まで登録できる。1ゲーム, 1チーム7名, 交替要員8名とする。
- ◎試合方法
 - ・参加チーム数により決定
 - ・ルールは平成31年度日本ハンドボール協会競技規則に準ずる。
- ◎日程
 - ・2日間
- ◎服装
 - ・ユニフォームは背番号, 前番号を規則に従ってつけること。
(ユニフォームは濃淡はっきり区別のつくもの2着用意)
 - ・GKはCPとはっきり区別できるものにする。また, 相手チームとも区別できるものであること。
- ◎使用球
 - ・2号, 手縫い(ミカサ, モルテン)
- ◎その他
 - ・ポイントシューズ不可, 両面テープのみ使用可。

⑯ 弓道 (東西合同)

- ◎参加規定
 - ・団体競技 男子の部 女子の部
 - ・個人競技 男子の部 女子の部
 - ・団体は男女とも5名1チーム
 - ・選手変更は, 個人戦と団体戦の出場者の間での差し替えのみ1名に限り競技開始までに申し出があれば認めるが, 立順の変更は認めない。1名欠損を生じた場合, 4名で団体への参加を認める。
 - ・個人戦のみ, 参加者の人数は制限しない。
- ◎試合方法
 - ・射程距離 28m36cm 霰的を使用。
 - ・射数は, 各自2・4・4の10射とする。
 - ・審判は, 全日本弓道連盟競技規則及び山口県中学校弓道競技規則による。
- ◎服装
 - ・団体戦は, 個人戦も兼ねる。
 - ・トレパン又はズボン, スカート, トレーニングシャツ。袴を着用してもよい。ただし, 袴着用の際は, 足袋を着用すること。
 - ・女子は, 胸当てを使用すること。

⑰ バドミントン (東西合同)

- ◎参加規定
 - ・団体 男女とも学校単位, 各支部2チームまで。ただし, 支部4チーム以上の支部は3チーム, 6チーム以上は4チーム, 9チーム以上は5チームとする。1チーム編成は5~7人とする。
 - ・個人 支部団体0~1校は2複2単まで, 2~4校は4複4単, 5~6校は6複6単, 7校以上は8複8単とする。
- ◎試合方法
 - ・団体戦 トーナメント方式
2複1単, 同一対抗で単と複は兼ねられない。
複-単-複の順で行う。
 - ・個人戦 単・複ともトーナメント方式。同一選手が単複は兼ねられない。
- ◎その他
 - ・服装は, 日本バドミントン協会検定合格品を使用し, 必ず体育館専用シューズを履くこと。
 - ・試合球は, 日本バドミントン協会検定合格球(エアロセンサ700、3番)とし, 出場選手数に応じた数を持ち寄る。
 - ・ゼッケンは, 下図の通りとし背面につける。



⑱ テニス(東西合同)

- ◎参加規定
- ①個人戦シングルス
 - ・前年度の秋季大会の8位までの選手は出場権を与える。
 - ・各学校男女とも、出場権を与えられた選手以外に3名以内とする。
 - ②個人戦ダブルス
 - ・各学校男女とも3ペア以内とする。
 - ③団体戦
 - ・7名を登録選手とする。

- ◎試合方法
- ・平成30年度 (公財)日本テニス協会の競技規則による。
 - ・個人戦・団体戦とも、1セットマッチ(6-6タイブレーク)。
但し申込数により変更あり。

- ①個人戦 ・試合方法はトーナメント方式。
- ②団体戦 ・1シングル、2ダブルスの3ポイントで実施する。出場順位はフリーとする。
 - ・シングルスとダブルスを兼ねて出場することはできない。但し、1シングル・1ダブルス(計3名)での出場は可(2ダブルスは不可)とし、ダブルス2を失ったものとして対戦を行う。また、「1シングル・1ダブルス」同士の対戦の場合で1勝1敗となった場合、得失点率で勝敗を決定する。それでも勝敗が決まらない場合は、代表2人によるダブルス(タイブレーク)を行い、その結果を勝敗とする。

◎試合日程

第1日目		第2日目	
〈団体戦・個人戦ダブルス・シングルス〉		〈個人戦シングルス〉	
集合・受付	8:00~8:15	集合・受付	8:00~8:15
コート整備・解放	8:00~8:30	コート整備・解放	8:00~8:30
監督者会議	8:15~8:30	監督者会議	8:15~8:30
開会式	8:35~	開会式	8:35~
試合開始	9:00	試合開始	9:00

※第1日目の個人戦シングルスは、団体戦・個人戦ダブルスに出場している選手のみ実施する。

- ◎使用球
- ・今大会の使用球は、ブリヂストン社の「XT-8」とする。
 - ・ボールは、各学校持ち寄りとする。(必ず未開封のもの)
 - ・個人戦については、シングルス1名につき2球、ダブルス1ペアにつき2球、団体戦については、1チーム6球を当日持参し、受付時に本部に提出する。
- ◎服装
- ・通常テニスウェアとして認められているもの。(襟なしのものも可)
- ◎その他
- ・受付は、各学校ごとに監督・引率者がまとめておこなうこと。
 - ・全ての試合日に、監督・引率会議を行うので、監督・引率者は全員参加すること。
 - ・参加選手・引率者は、会場設営、片づけに協力すること。
 - ・団体戦のベンチコーチは、登録された監督(教員)・コーチ(教員・外部指導者)・登録選手とする。